

原点
回帰
be myself

Golgo Matsumoto

お笑い芸人

ゴルゴ松本 さん



「教」「学」「遊」、

すべての文字に「子」が宿る

「命の授業」を通して思うこと



教職に憧れた少年時代 現在は少年院で『命の授業』

小中高を通して、目立ちたがり屋で周囲を笑わせるのが大好きでした。印象に残っている先生の1人に、小学3年時の担任の先生がいます。とても明るい女性教諭で、ある時、その先生が「松本君は元気だから」と僕を体育係に指名してくださったんです。「先生に認められた!」と自己肯定感が爆上がりして、急に勉強まで頑張るように(笑)。自分を見ているのかどうかって、子どもでもちゃんと分かるんですね。中学校でも良き師に恵まれ、

「先生になりたい」と思った時期もあります。

そんな僕が少年院で初めて『命の授業』を行ったのは2011年のこと。ある方に依頼され、一度だけのつもりで引き受けました。話す内容をノートに書いて臨んだものの、「一方的に話すスタイル」に違和感があり、急遽「対話形式のスタイル」に。白熱した時間はあっという間に過ぎ、「やり切った!」との思いで外に出ると、とても心地良い風が僕を吹き抜けていったんです。その風に「活動が続けなさい」と言われた気がして、以来15年、全国の少年院を巡っています。内容は毎回変わりますが、「夢をどう実現させるか」はよく話すテーマの1つ。夢に向かう

途中でつらい時は弱音を吐いてもいい。ただ、「吐く」という字は口へんに「+」と「-」ですね。これをプラス思考に切り替え、マイナス思考を無くすと「叶う」になる。そんな話をしています。



母の誕生日に生まれた「命」 「全力&ポジティブ」で道を拓く

テレビで高校野球を見て感動してからは、甲子園を夢見て野球の強豪校へ進学。毎日汗まみれ、泥まみれで練習を重ね、ベンチメンバーでしたが高校3年時に春の甲子園に行くことが叶いました。高校卒業後は芸能界を

目指し、売れない役者時代を経て、27歳

の時にレッド吉田さんと「TIM」を結成してお笑いの道へ。インパクトのあるギャグを考えては試す毎日でした。そして、

1997年1月2日、年始で帰省していた埼玉の実家から東京に戻る日のこと。駅のホームから山を眺めて

いると、山の形に重なるように「命」の文字が浮かんで

見えたのです。その瞬間、その文字が体に

ドーンと飛び込んでくる

感覚があり、「これだ!」と

思うと同時に、自然と「命」のポーズをとっていました。

その日のうちに芸人仲間に見せたところ笑いがとれて、「これは行ける!」と思いました。奇しくも1月2日は母の

誕生日。僕を生んでくれた母の誕生日に、僕の代表ギャグになる「命」が生まれたと思うと、巡り合わせの不思議

を感じずにはられません。「全力」かつ「ポジティブ」。これを貫いた先には、必ず道が拓けると僕は信じていま

す。少年院での活動も同様です。全力で向き合い、大勢

いる中の1人が何か気づきを得てくれたら大成功なのだと

ポジティブに考えています。もちろん「あっ、命!」とポーズを決める時も、毎回いつでも全力です!

講演会でのゴルゴ松本さん。
毎回、全身全霊で熱いメッセージを届け続けている。

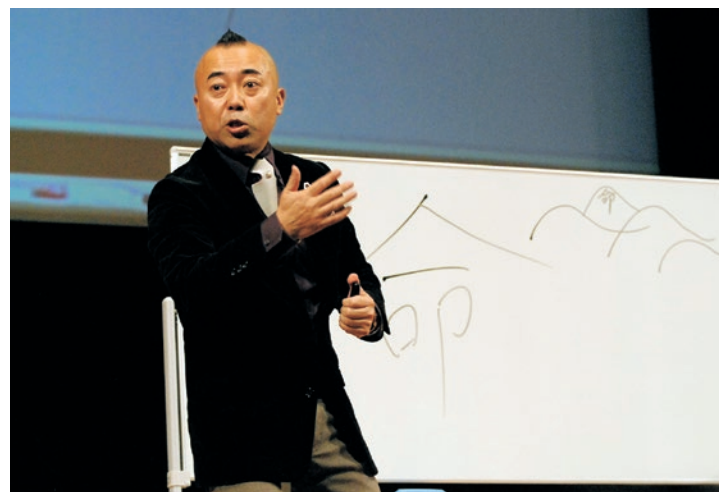
失敗することは自分を磨くこと 「自信」は 後から付いてくる

少年院で質問を受け付けると「自信が持てないのですが、どうすればいいですか」と相談されることが多々あります。僕は「やり切る、出し切ることが大切だよ」と伝えます。この「切」という漢字には「磨く」という意味もあると考えています。ダイヤモンドも切って磨くから輝くわけですね。「やり切る」「出し切る」を実践すると、失敗して恥をかいったり、傷つくこともあるけれど、それらはすべて「自分を磨くこと」につながります。自分磨きをしていくと自信は後から自然と付いてくるものです。

ところで、このインタビューのコーナータイトル(原点回帰)にも入っている「原点」という言葉。僕にとっての原点は無数にあります。というのは、過去も今も未来も、全部つながっていると思うからです。甲子園という目標があったからハードな練習に耐えられたし、そのおかげで体力がついたから、自分でも来年で還暦とは思えないほど元気だし。売れない時代があったから、「命」の人文字ギャグに出会えたし、それが今では少年院での『命の授業』につながっているわけですね。だからこそ「今」を大切にしようと思っています。

「教える」「学ぶ」「遊ぶ」で バージョンアップ!

『かがやき』の読者の皆さんは、その多くが先生方とのことなので、先生方にピッタリの漢字を使ったゴルゴ流メッセージを贈らせていただきます! 旧字体の「敷(こう)」という漢字には、「教える」「学ぶ」の両方の意味があります。つまり、元をたどれば「教える」と「学ぶ」



は1つの漢字だったということ。したがって、どうか「教える」と「学ぶ」の両方を大切にしてください。そして、先生自身が「遊ぶ」時間も持ってください。これら3つの漢字にはすべてに「子」が含まれています。先生方は自身の学びを子どもたちに教えると同時に、多様な子どもたちと向き合う中で、先生が子どもから教えられ、学びを得ることもあると思うんです。そして、先生自身が旅に出たり、没頭できる趣味などの「遊び」を通して自身をバージョンアップすることは、豊かな教育には不可欠なことだと僕は思います。「先生」とは文字通り「先を生きる人」ですから、先生方には自身の人生を謳歌しながら子どもたちを先導し、希望あふれる未来へのレールを敷く存在であっていただきたいと心から願っています!

ゴルゴ松本さんから読者の皆さんへ
ボイスメッセージが聞けます!!



わたしの 本棚



“本棚を見れば、
その人が見えてくる”

ゴルゴ松本さんが自分の本棚から
ピックアップした3冊とは?

01

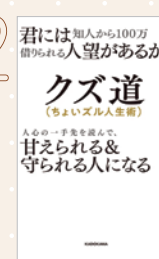


階 (キザハシ)

著: 谷村 新司 角川書店

谷村新司さんの言葉や世界観が集約された、日本人の魂に響く1冊。人生の試練を「ステップ」と捉え、一步一步上る大切さを教えてくれます。読むと「昔の自分」や「日本の良さ」が蘇ってきて、心が温かくなり優しくなれる本です。癒しにもなると思うので、子どもたちと向き合い日々頑張る先生方にぜひ読んでほしい作品です。

02



クズ道 (ちよいづル人生術)

著: 大和 一孝 (スパロウズ) KADOKAWA

僕の後輩芸人の著書で、どん底からの復活劇を綴った1冊です。どうしようもない人間だった彼が、人生の見方を変え、まっとうな人間として自立していく姿には感心させられました。人はどこからでもやり直せると教えてくれる本です。さまざまな背景や葛藤を抱える子どもたち一人一人を信じ、向き合うためのヒントが得られます。

03



ヒミコの暗号

著: 伊勢谷 武 宝島社

邪馬台国の謎や日本人のルーツに迫る歴史ミステリー小説。緻密な取材と圧倒的な情報量で描かれたストーリーは読み応え抜群で、日本の歴史や日本人としてのDNAを学び直すきっかけを与えてくれます。歴史が好きな方はもちろん、日本の起源に思いを馳せ、自身のルーツを深く学びたい方にもおすすめの1冊です。

Profile

ごるご・まつもと 1967年、埼玉県生まれ。お笑い芸人。1994年、レッド吉田とお笑いコンビ「TIM」を結成。「命」「炎」などの漢字ギャグで人気を博す。以降、バラエティ番組や子ども番組等で活躍。2011年より全国の少年院でボランティアの講演を開始し、その活動がテレビや新聞などで紹介され大きな話題となる。著書に『あっ! 命の授業』(廣済堂出版)、『ゴル語録 命を磨くための50の言葉』(文藝春秋)、『「命」の相談室 僕が10年間少年院に通って考えたこと』(中公新書ラクレ)などがある。



ゴルゴ松本さんの Must BUY
Present

かがやきさんの東京で1番! クイズ (P32)
正解者の中から、
ゴルゴ松本さんオススメの
「ラスクロとバイクロワッサンのセット」
(三日月屋) をプレゼント!
たくさんのご応募、お待ちしております!

